

あたらしい学校を考える会

実施設計時 第1回 20201014

これまで

新しい学校を考える会の歩み

時期			課題の3本柱（スタート時「新しい学校を考える会」から）			
			ハード/器		ソフト/活動	
			建設/建物		学校運営	保護者・地域
基本構想時	第1回	2019/01/16	コンセプトのキーワードだし			
	第2回	2019/01/22	コンセプトの図式化			
	第3回	2019/02/06	コンセプト案+必要な機能だし			
	第4回	2019/02/20	学校の機能検討①（コンセプトをもとに）			
	第5回	2019/03/08	学校の機能検討②（防災機能の検討）			
	第6回	2019/03/19	学校施設の具体的イメージ			
	第7回	2019/04/25	基本構想（案）提示			
基本計画時	第1回	2019/06/11	地域とつながる学校のあり方			
	第2回	2019/07/03	新しい校舎の配置や平面検討			
	第3回	2019/07/30	まとめ/配置検討案4案提示			
基本設計時	常任委員会	2019/10/17	BNK/TeamLABO紹介[プロポ案説明]			
	第1回	2019/11/14	特別教室のあり方			
	第2回	2019/12/09	平面3案提示+意見交換			
	第3回	2020/01/17	外構案/平面2案提示+意見交換			
	第4回	2020/02/12	基本設計時最終平面案提示+図書室/開放施設アイデア			
	常任委員会	2020/07/中	基本設計案報告（書面）			

「新しい学校の基本コンセプト」

『自分が“世界”と出会う場所』

新たな世界（世界観）と出会うことができる学校という想いが込められている。

人は一生学び、一生育つ。

子どもたちも保護者も地域住民も、みんなにとって出会いが広がり、

出会いによって人々がつながる学校を創りたい。

「自分が“世界”と出会う場所」というコンセプトは、

子どもたちを中心として、

安平町の「自然」「地域」「文化」「人」に触れ、

支え、支えられる中で、

学校を通して「スポーツ」「テクノロジー」など

「異年齢、多世代」の人達、たくさんの「本物」と出会い、

さらに

「色々な考え」「多様な価値観」「多くの学び」「夢」と出会い、

“世界”に生き、“世界”へと羽ばたいていく

みんなの学校

コンセプトにある

「自分」とは子どもたちのみを指すものではない。

「世界」とは国外を指しているわけではない。

地域とのつながりが深い安平町の良さを大切に捉え、

子どもたちだけではなく、地域の人々も多様な考えや価値を学び、

高齢者を含む大人までもが豊かに学び育つ場所を創ることを目指すものである。

基本設計

建築

Architecture



フィジカル

物理的・身体的



そこにしかない
そのときにしかない

隣人



深めて拡張する



五感を拡張する

時間 変化・光・1日/春夏秋冬

スケール 大きさ・距離感

ICT

Information & Communication Technology



バーチャル

仮想的



どこでも
いつでも
誰とでも



広げて拡張する



ネットワークを拡張する

データで共有する

見える化する

スマホ・タブレット・PC
Webカメラ・マイク
モニタ・プロジェクタ
Webアプリ・校務システム

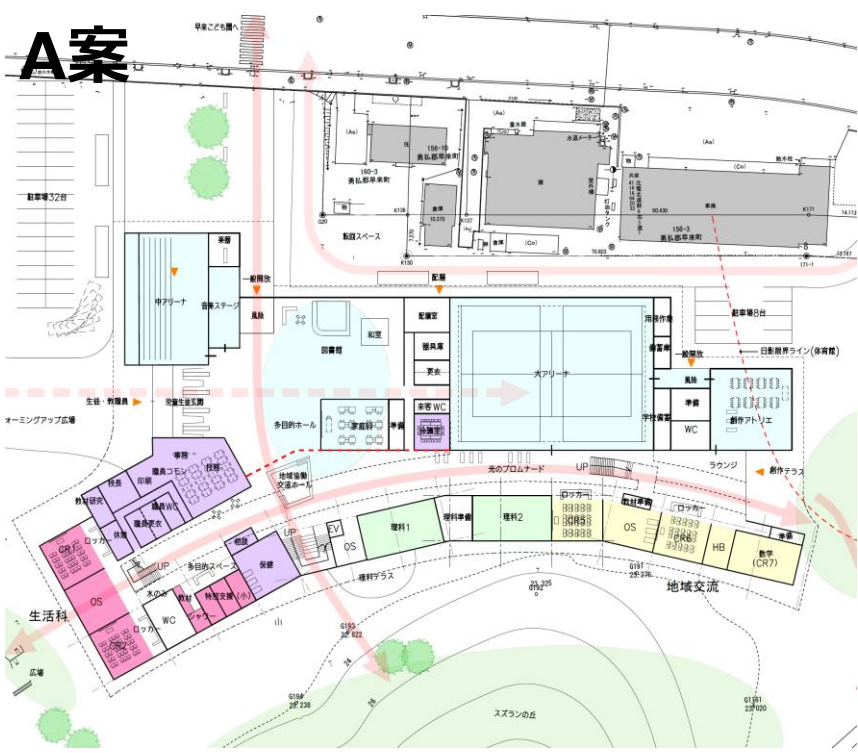
2019

基本設計経過

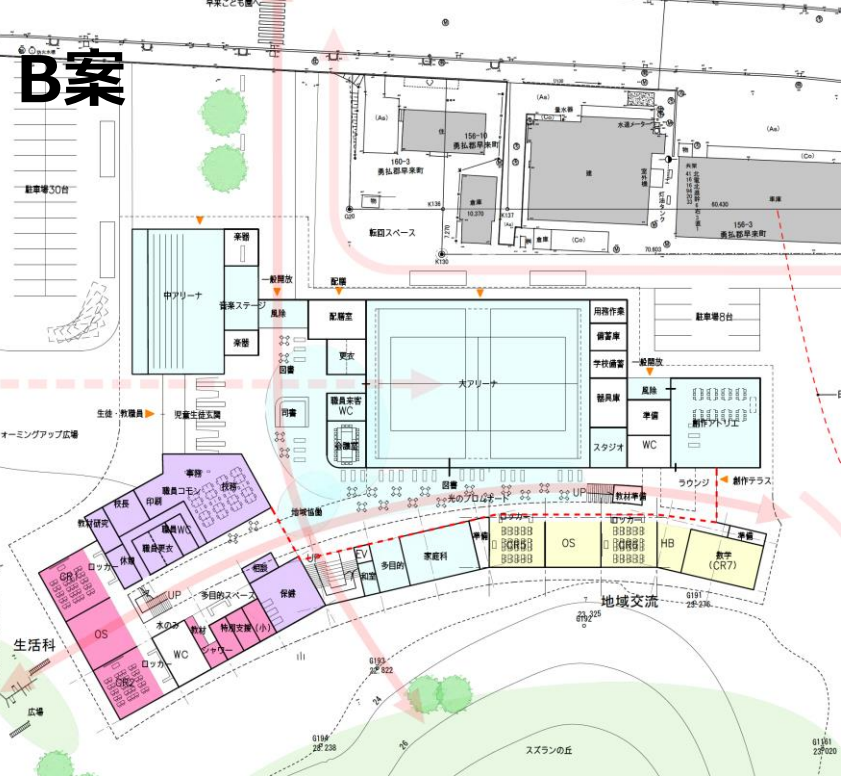
11/14



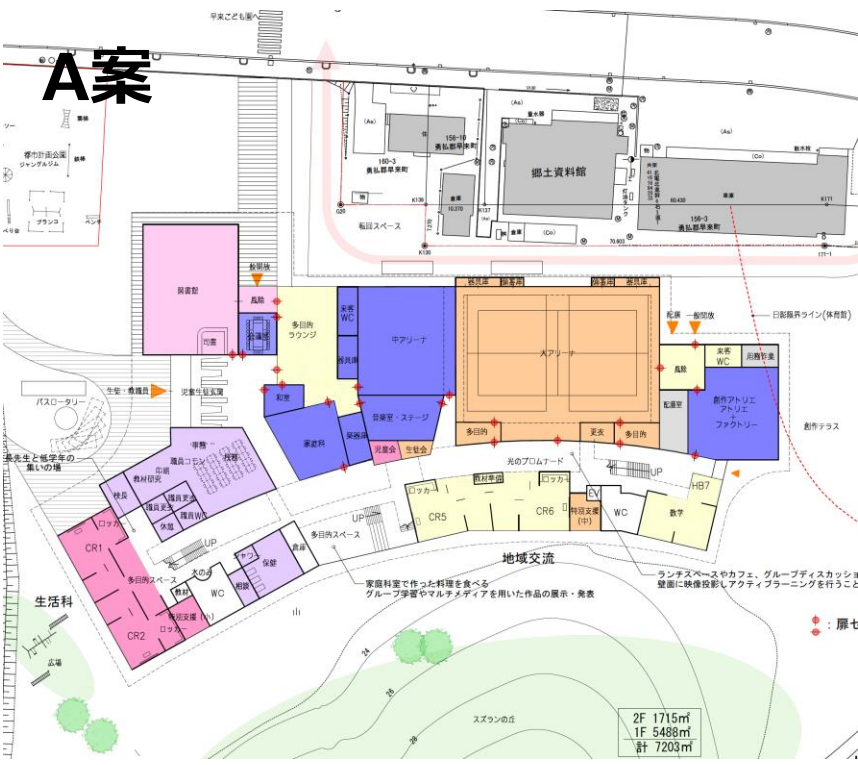
A案



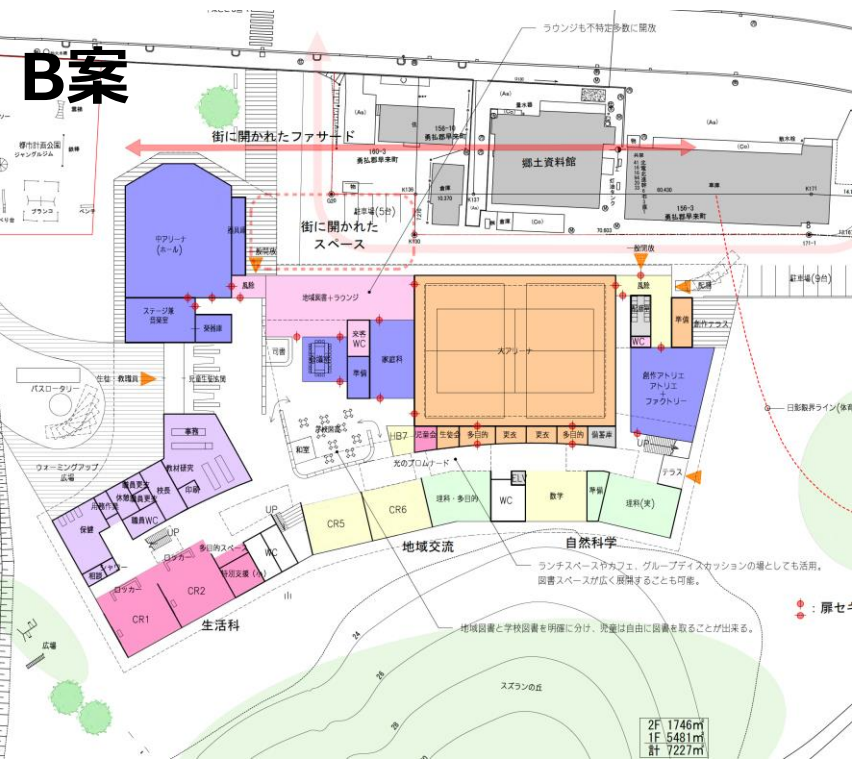
B案



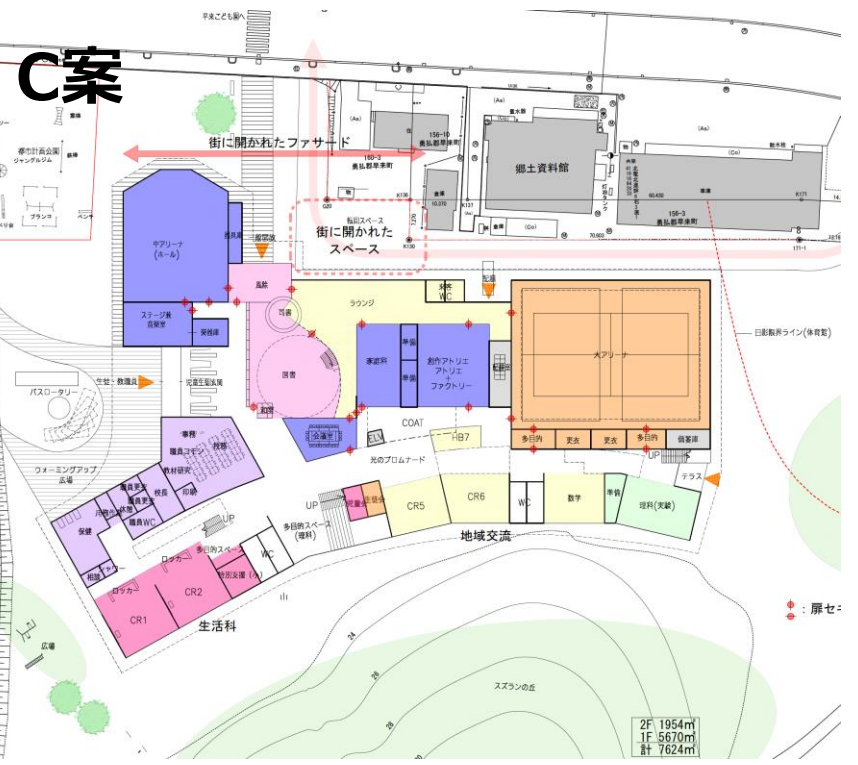
12/09

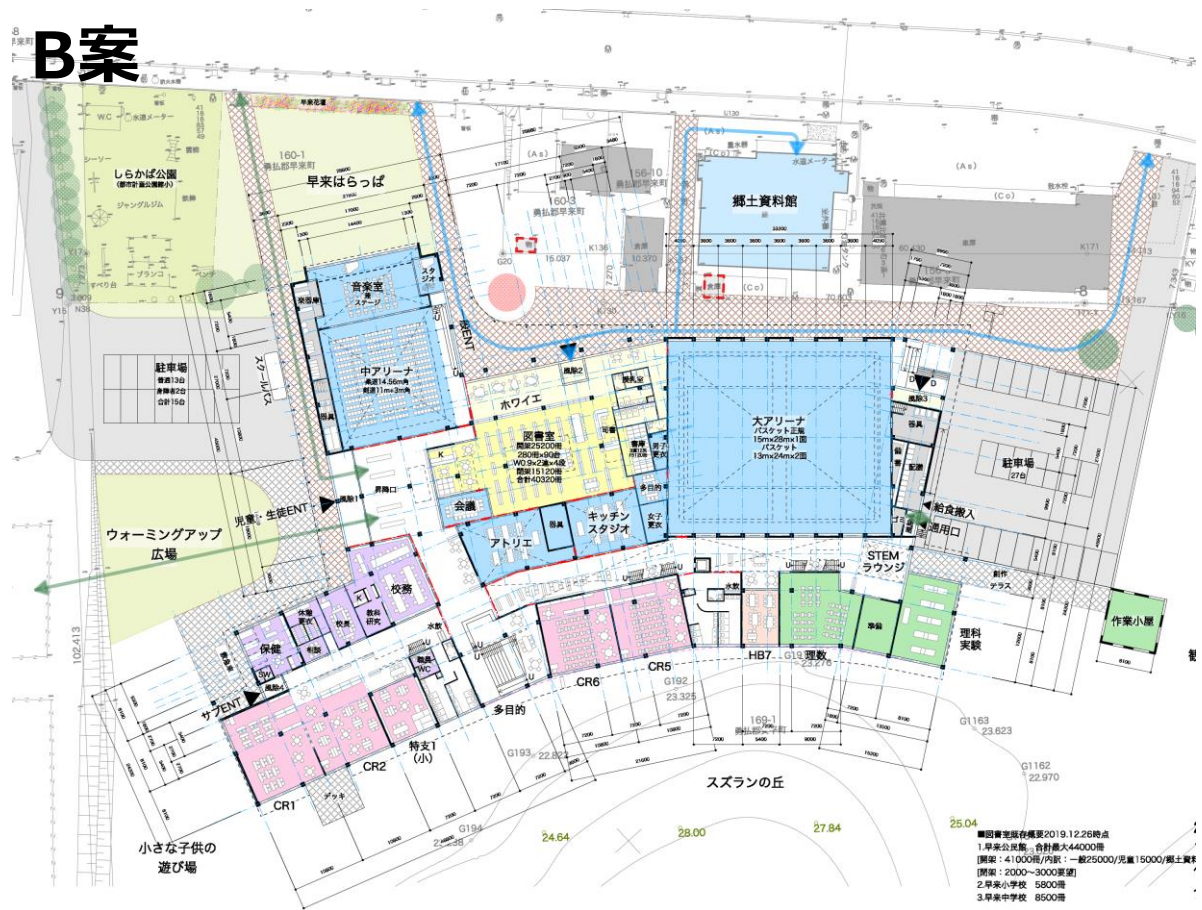
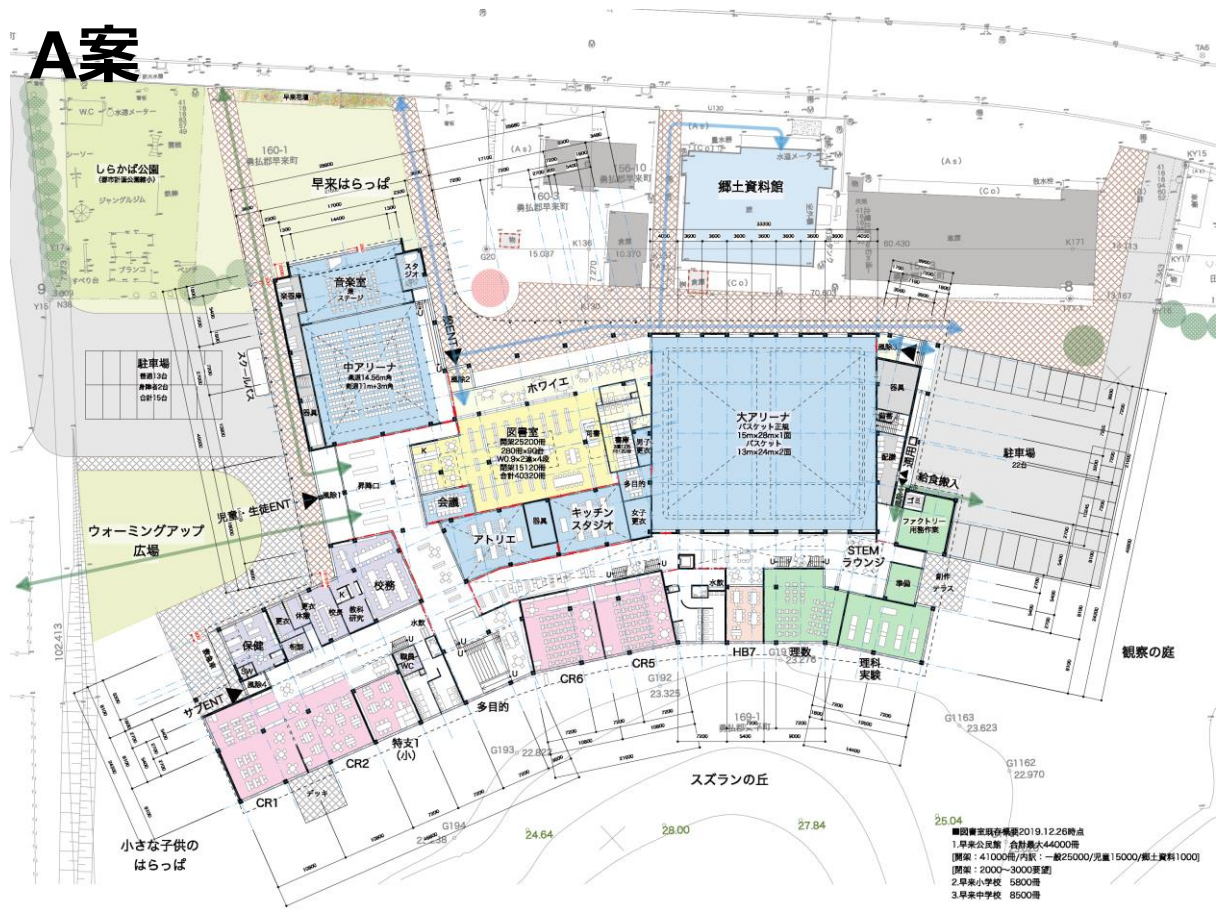


B案



C案





平面構成の考え方

■子どもたち、地域住民に開かれた佇まい
児童生徒アプローチと地域住民アプローチは、それぞれ設けます。どちらにも庇をつくり、雨や雪から人々を守ります。地域住民のエントランスは、図書室の様子がよく見える視認性高いものとし、地域の人を迎え入れます。

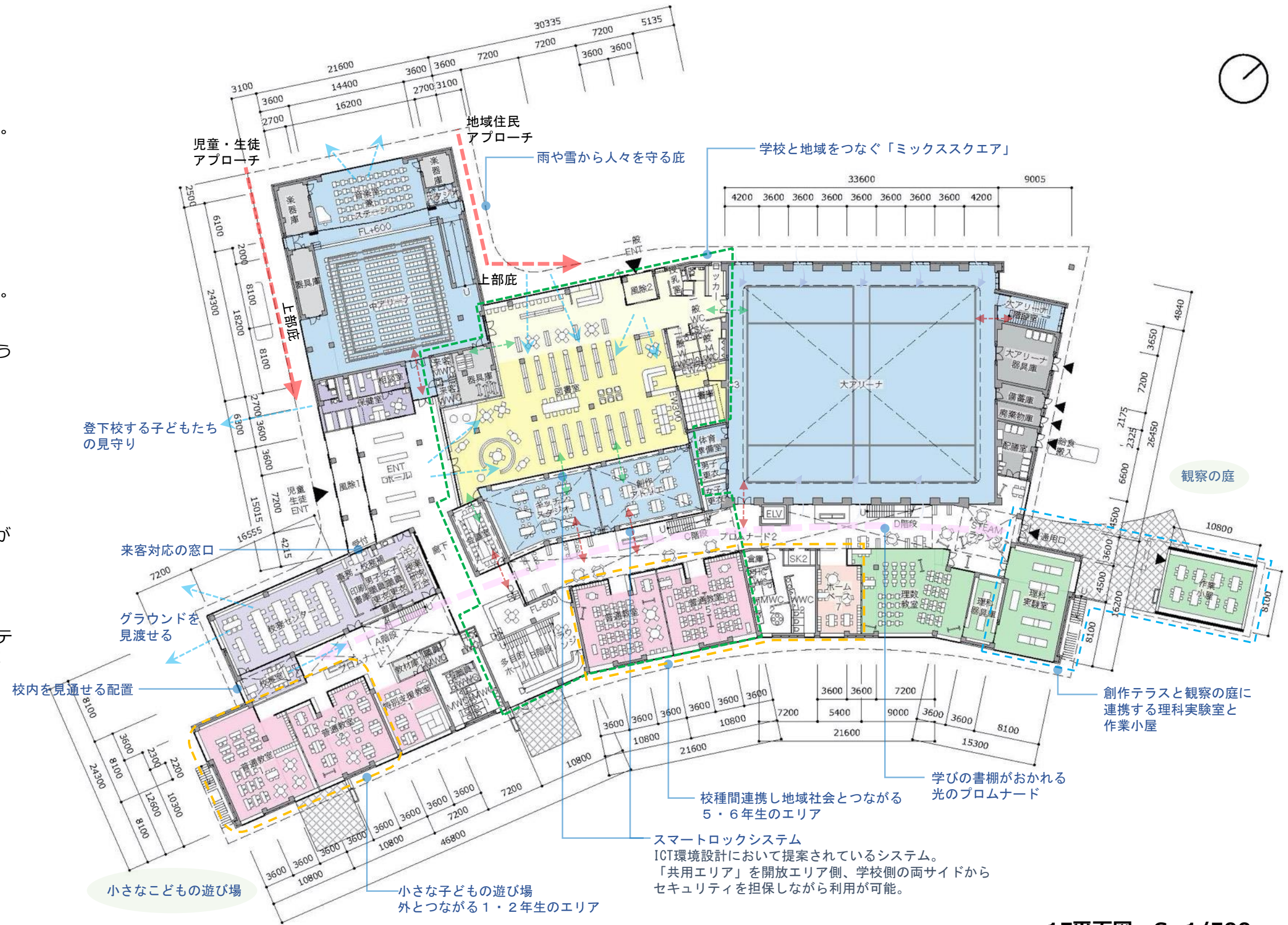
■図書室を核とする全体構成
児童生徒エントランスを入ると目の前に図書室が広がり、まちからも見える配置とします。また、地域の人々とシェアする「共用エリア」と全て接しています。人が本に親しみ、居場所になり、交流を生み出す校です。

■教室をつなぐ「光のプロムナード」
トップライト、ハイサイドライトから自然光が注ぐ吹抜け空間「光のプロムナード」が9学年の教室、特別教室を立体的につなぎます。授業や展示、発表などの活動のきっかけが生まれるように、建築や家具で小さなまとまりのあるスペースを作り、ICTが活用できるように壁を映写可能な仕上げとします。

■学校と地域をつなぐ「ミックススクエア」
「開放エリア」である図書室、学校と地域の人々がシェアする会議室・創作アトリエ・キッチンスタジオなどの「共用エリア」、子どもたちの活動が行き来する「光のプロムナード」、子どもたちの生活の中心である教室を見通しの良い4層構成とし、各々の活動が重なりあう状況を作り、互いの活動を目撃しあう環境とします。

■人の目とICTを活用したセキュリティ
ICT技術を活用した「スマートロックシステム」を活かすため、「共用エリア」を「開放エリア」と「学校専用エリア」両方から出入りできる平面計画とします。「開放エリア」は、開放時は人が常駐し、人の目で活動を見守ります。

■学校を見守る管理諸室の配置
校務センターは児童生徒のアプローチ、グラウンドを目視できる位置とします。校長室からはグラウンド、光のプロムナードを見ることが出来ます。保健室は登下校時の子どもたちの健康を見守れるよう、また子どもたちがいつでも立ち寄れるようにENTホールに隣接した位置です。複数の目で学校を見守ります。



1F平面図 S=1/500

■学年の特性にあわせた普通教室の配置

- ① 1・2年生は生活科に対応するため1階に配置し、外にはデッキを設け、小さなこどもの遊び場を整備します。
- ② 3・4年生はギャングエイジと呼ばれる発達段階で、子どもだけで群れられるように2階に配置します。
- ③ 5・6年生は校種間連携（中一ギャップ解消）のため互いに隣接して配置します。
- ④ 7年生は上級学年とのつながりや、地域とのつながりに考慮して1階の5・6年生との並びに配置します。
- ⑤ 8年生・9年生は受験に向けての学習に適した空間とするため、落ち着いた光のプロムナードの最も奥の2階に配置します。
- ⑥ 7・8・9年生は平面的にも立体的にも生活の場を形成するようにまとまりのある形に配置します。

1年生～4年生は児童館、学童で地域とつながり、8・9年生は社会参画の意識で地域の一員として動く一方、5・6・7年生は地域を学び、つながる機会が少ないことから地域社会に開放、共用される「ミックススクエア」の近傍に配置します。

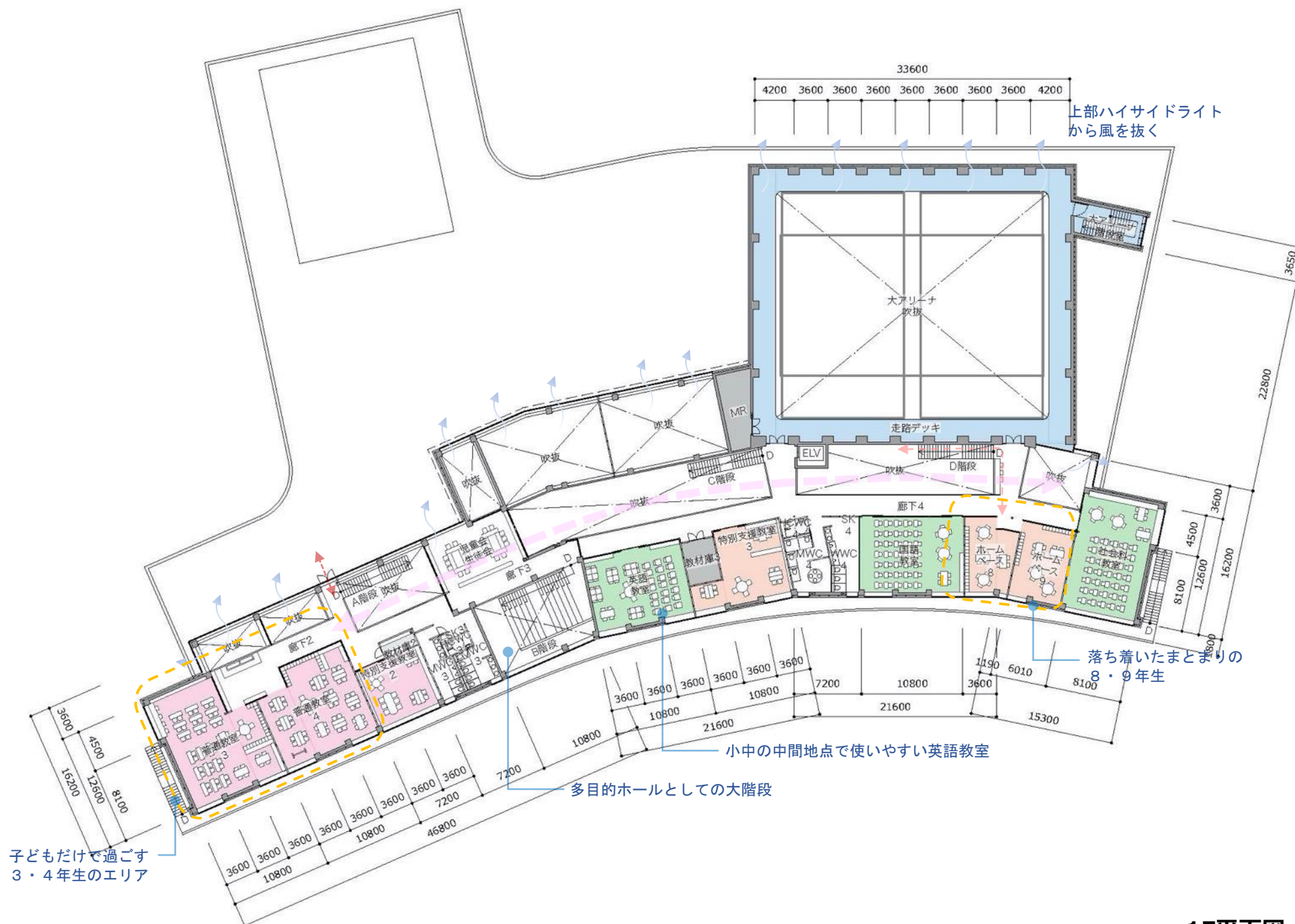
支援の必要な子どもたちのための特別支援教室を3つ用意し、それぞれの年齢に合わせた場所で学ぶことができるよう配置し、共に成長を感じられる環境を作ります。

①創作系と体育系
地域の人々との「共用エリア」である創作アトリエ、キッチンスタジオ、大リーナ、中アリーナ+音楽室+スタジオは図書室と隣接し、「ミックススクエア」を形成し、地域と交流する特別教室とします。

②理数系
理数系は往来があり、外部とも繋がりやすい1階に配置します。理数教室、理科実験室でSTEAMラウンジを形成し、理科実験室は外部の創作テラスや作業小屋、観察の庭と連携容易な位置とします。

③人文系
人文系は落ち着いた環境の2階とします。英語教室は小学校ゾーンと中学校ゾーンの間に配置し、特別支援教室やホームベースを間に挟みながら国語、社会科教室を配置します。

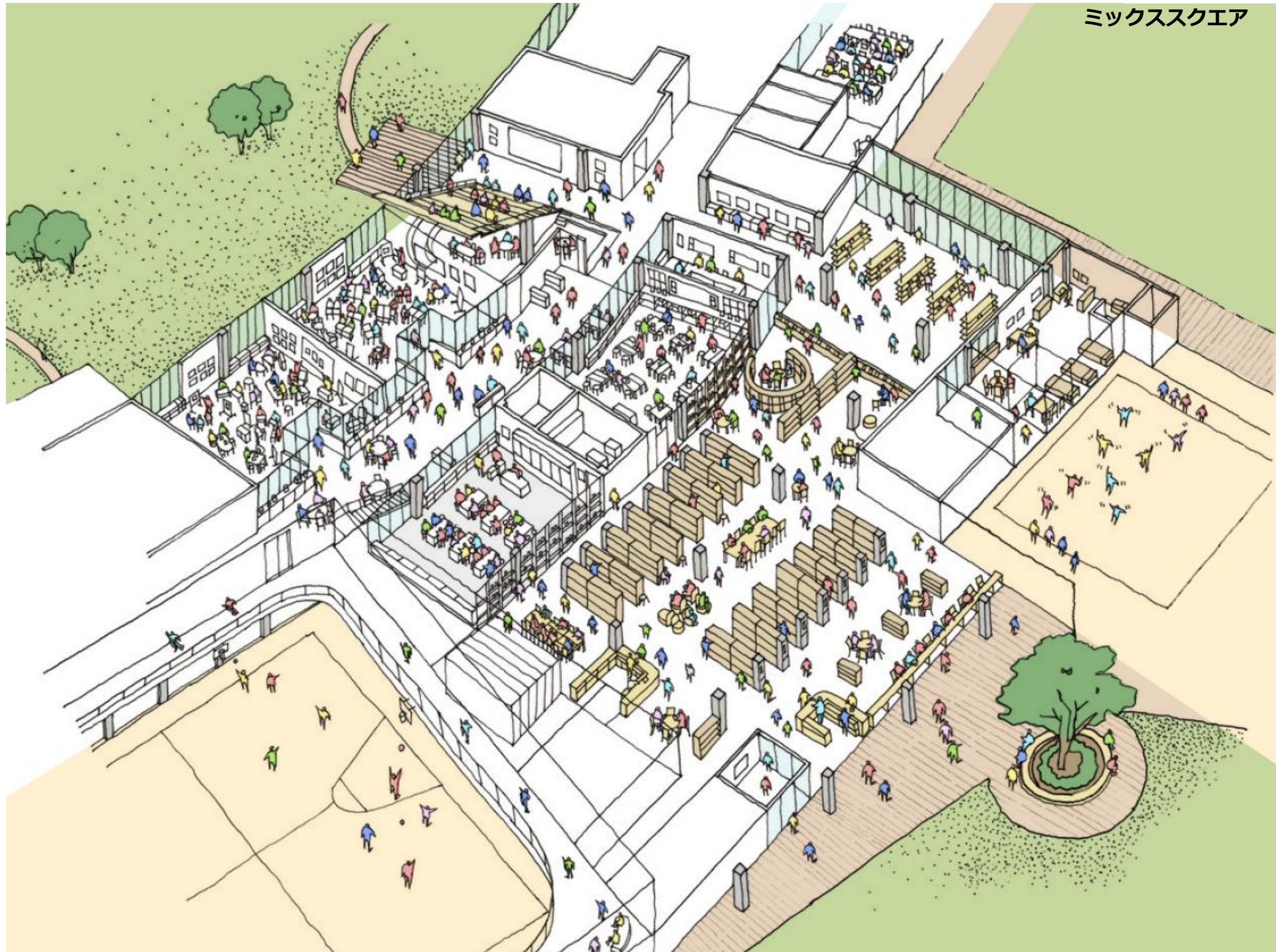
1 階をRC造、2 階をRC造外壁と木造屋根を組み合わせた外壁準耐火構造とし、RC造2 階建の耐火構造部分で各々の木造屋根使用部分を2000m²以下に区分することで、耐震性にすぐれ、十分な防火安全性を確保した燃えしろ不要でリーズナブルな木造校舎をつくります。木材の一部は安平町産のカラマツを地元工場でラミナとしたものでつくる集成材を用います。



1F平面图 S=1/500

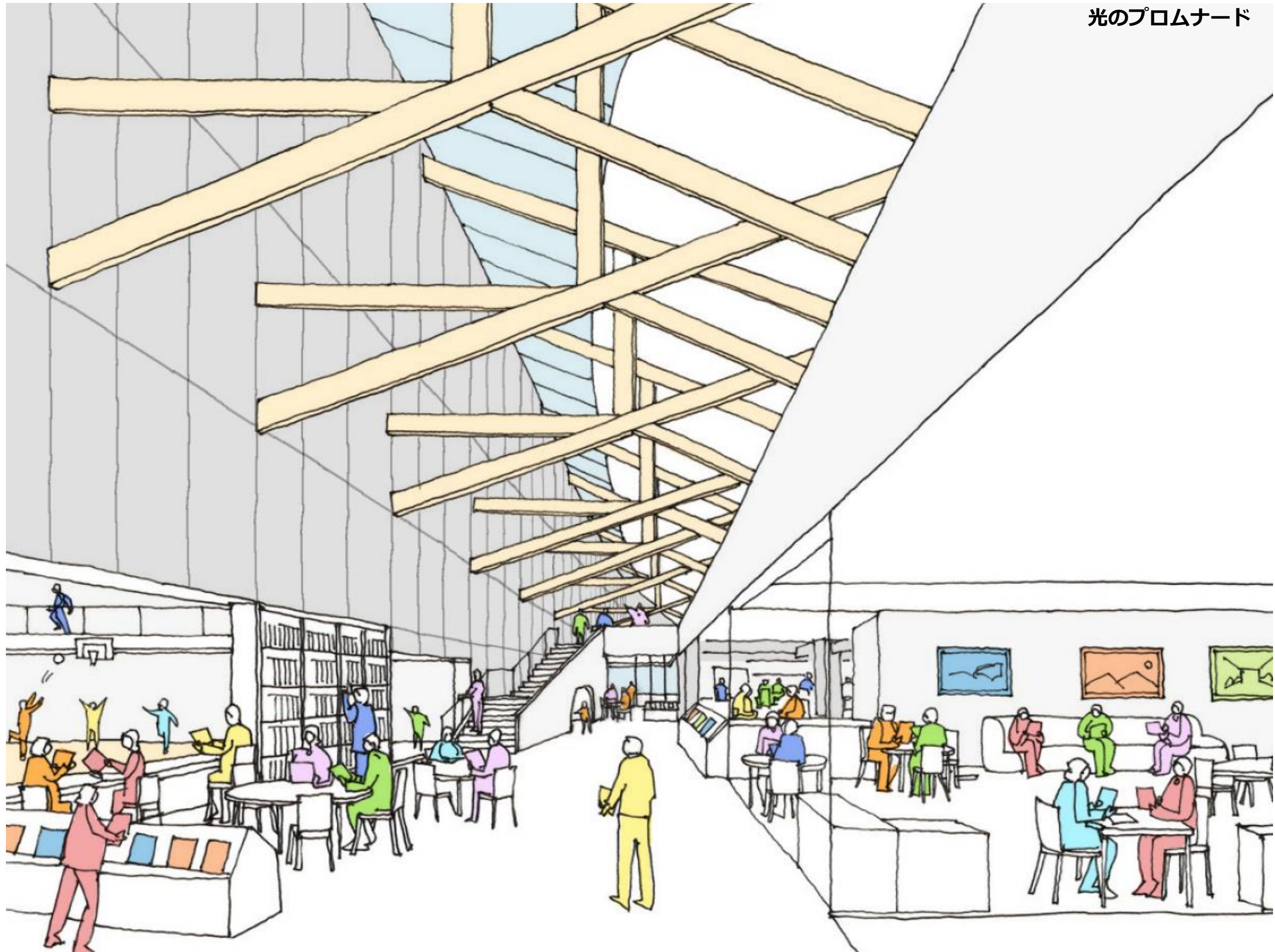
基本設計書

ミックススクエア



基本設計書

光のプロムナード



基本設計書

大アリーナ



| 基本設計時 第1回「新しい学校を考える会」ワークショップ |

1. 日時 2019年 11月 14日
2. 場所 安平町総合庁舎 2階 大会議室
3. 説明内容
- 1.開会のあいさつ
- 2.これまでの経緯の説明
- 3.設計者紹介
- 4.プレゼンテーション

【アトリエブंकより】

- 1.プロポーザル選定案の説明※1/300・1/600模型も提示
- ・配置について
- ・1階平面について
- ・2階平面について
- 2.基本計画(案)時イメージ
- ・配置平面検討案A/B/C/Dについて
- ・施設構成の考え方

3.スケジュール

【チームラボより】

- 1.プロポーザル選定案の説明
- ・チームラボとは
- ・事例紹介
- ・今回計画について

4.グループディスカッション

- ・参加者13名が4グループに分かれ意見交換を行った。

※「どんな特別教室だったらいい、どうだったら使いやすい

(地域と生徒)(図書館、音楽室、家庭科室、創作アトリエ)について」



| ワークショップの様子 |

| ワークショップの記録 |

■どんな教室だったらいい、どうだったら使いやすい

家庭科室	・下ごしらえまでして終わったら子どもたちと食べられる ・種をまいて、とれたものを食材にして家庭科室で料理をつくる ・ラズベリーをジャムにしたり ・音楽室、理科室、図工室はどのように変わる？ ・ポップもつくって、町民も一緒に売る
音楽室	・音楽室も共有できれば良い ・音楽室でライブができる(ちょっとしたライブハウス)
創作アトリエ	・食器を作って、家庭科室で料理をする ・つくったものを学校で売ってしまう(地域協働) →教育になるのでは 下地はある ・家庭科と創作アトリエが近くても良いのでは ・かじ屋→その設備があれば使いたい ・日曜大工教室 ・道具を共有して個人で持っていないものがあればよい ・木工も魅力→小学校の授業で行っているので地域の人も使いやすい →鉄は個人では難しい ・美術室などを子どもと大人たちでDIYしながら作り上げていく もしくは学校の壁を作り上げる ・図工室(ものづくりできる)があるといい →何を置く？チェーンソー？笑 ・わらじを編む
大アリーナ	・現状使えていないのでニーズはあると思う ・自由に使える体育館(広い・高い)特に冬 ・シャワールームがあるといいかも
中アリーナ	・手動でひな壇動かせないか
和室	・和室 こどものため ・華道、茶道など、和の世界に小さい頃から触れられるといい →和室
外部	田んぼを作る ・外メインの部室は厳しいかも ・バスターミナルを作る 絶対!! ・ガーデニング部などあればいい
その他	・部室がない →部室をどこかにつけたほうが良い ・花の世話など→園芸同好会 ・ガラス温室もあればいい ・くつろげるスペース ・フリースペース(ペイブレードとかあそぶ場所) ・空き教室→ママたちの情報交換用など ・場があればみんな来てくれる ・くつろげるスペース ・図書室からアリーナは見えなくても良いのでは？ ・エレベーターは怪我した子どものためにあった方が ・教室外での授業をできるように! 廊下などへ! ・地域の人のスキルに合わせて子どもが授業を選択できるように!音楽(ドラム フルート) ・高齢の方はタブレットやスマホではなく指紋ロックならいける? スマートロックは? 難しい スマホない ・いろんな人が使っていると利用ハードルが下がりそう →みんなのスケジューラー ・公共施設を使いたいと思っても、管理課はどこ? 予約方法は? と分かりにくい →一括になるといいかも ・フリースペースの充実 ・他の学校とデジタル会議?(将来的には世界の国と) ・ITの活用 各教室がサーバーなどでつながっている (音源・画像・データ)

| ワークショップの記録 |

■感想・期待すること

地域開放エリア	・地域の人も利用 ・セキュリティには大きな不安と恐怖を感じた 時代と逆行している 登録者だからといって・・・放課後の時間が危険、不安 ・地域の人、特に高齢の方には使いやすい施設がよい(セキュリティなど) ・地域への開放の点ではセキュリティはしっかりしてほしいが、それを地域の人へわかりやすくしてほしい ・地域との交流 ・地域と学年の交流
駐車場	・駐車場が広く必要
体育館	・体育館 夏 冬
外部	・土の地面必要 ・グラウンドの遊具は？ ・今までとは違う遊具 ・池をどうする？ デジタル池？ ・丘の散策路はすごい良いと思います ・これまで通り、自然とふれあう教育が残っていくと良いと思います ・先人の開拓の歴史、文化の大切さをどう学校の中で表していくのか？ 期待したい 自然との繋がり・結びつき
図書館	・図書室の本をネット検索出来れば良い
教室	・教室にカメラがついていたらクラスの動きだとかが見えて良いと思う あと遠隔教育はめっちゃ興味があります というか、今度タイから早来中で中継します ・タブレットを使った予約の仕方が良いと思った
その他	・フリースペース、共同スペースの充実 ・先生、地域住民のマインドを変える必要がある(アトリエブंक、ラボの思想を理解できるか？) (地域からは学校への入りにくさ、無関心などのハードルがある) (教員は地域連携、ICTの有効活用の方法が分からない) ・あまり今と変わらない方が良い 変化に対応できない子どももいる ・ひらけた所も良いけどプライバシーも大切 ・テクノロジーが学びを変える →ラボがアートをインタラクティブなものに変えたように、学びももしかしたら変えられる？ チームラボさん ・学校の中に大画面のスクリーンを置くというのが良かった アトリエBNKさん ・木造建築の方が質感がいいと思った ・デザインの良さと実質的な使い勝手の良さとのバランス ・冷暖房の主なエネルギー源は・・・ ・ガラスの強度 地震のときに割れないか心配 ・どちらの発想も未来に期待が持てる ・音のデザインは・・・ 防音、消音、響き方など・・・ ・開放的な空間は良いと思う それにより室内が暑くなりすぎたり、寒くなったりしないようにして欲しい ・階段には何か工夫が？ ・見るとこの開放感と見えないとこの落ち着きや安心感のバランス ・子ども達(大人も)運動しやすい環境 ・遊具・ボルダリング 安全管理との両立は難しいかもしれないがあるとよい ・子どもたちと地域の人たちが交流できる(しやすい)スペース ・抽象的な「こんな学校になったらいいな」も実現できるような学校づくりを期待します ・小規模であることを活かし、他学年と異世代との交流が活発化する仕掛けを盛り込んで欲しい ・学校のどこか一ヶ所でも「居場所」があるといい ・外との繋がりが広くなることが子どもたちにとってすごくプラスになると思います 全世界へと繋がることのできるシステムに期待します

その他	・明るい空間と木のぬくもり、そこで子どもや地域の人々が過ごしているイメージにわくわくしました ・最先端になることでお年寄りがとまどうのではないかとすこし心配です ・地域町民との交流の場について ・交流は大切だと感じる ・9年間、この温室のような学校で学ぶと9年後に巣立つときが心配 ・中継授業は興味深い ・I Tで出会ったモノ・コトは果たして本物なのか？ ・先生の共有に魅力を感じる ・建物は木材(コンクリートじゃなく)をメインにしてるのでおしゃれ ・自分が想像できない事を実現してくれるのを期待 ・学校内での連携はもちろんだが、町内での連携・町外での連携 ・学校にかよう子どもたち(小1～小3)全てが関われる一緒にすごせる環境にある →一緒にスポーツや遊び 昼食を取ったり ・小学生も学校祭ができる！ ・他の小学校との授業交流をもっと活発にした方が良い(教育格差をなくす) ・学校内での交流 ・こども園との交流 →場所は？交流できるか？ ・自然光がたくさん入る設計なのが良いと思いました ・予算の問題はあると思うが出来る限り実現させて欲しい ・学校に通う子ども、学校で働く先生、地域で暮らす住民、みんなが笑顔になる学校を作って欲しい
-----	--

| 基本設計時 第2回「新しい学校を考える会」ワークショップ |

1. 日時 2019年 12月 9日
2. 場所 安平町総合庁舎 2階 大会議室
3. 説明内容

1.開会のあいさつ

2.プレゼンテーション

【アトリエブंकより】

1.現段階のプランの説明※1/300模型を提示
 - 配置について
 - 1階平面について
 - 2階平面について
 - アトリエの使われ方について

2.現状案に対しての質疑・要望



| ワークショップの様子 |

| ワークショップの記録 |

■質疑・要望

大アリーナ	・大アリーナ、中アリーナを隣接させた方が良いという案が基本計画段階であったと思うが。 →基本計画段階では大アリーナ、中アリーナともにスポーツを行う予定だったが、 現在大アリーナではスポーツ、中アリーナでは体操や柔道、ホール的な役割だったり 多目的なスペースとし性格を分けたことで分離している。
中アリーナ	・ステージは出入口から奥まった位置の方が良いのでは。 ・ステージの下にくぐれるスペースを設けることで上手、下手の行き来が出来る。 高さは児童が通れるくらいで構わないので作った方が良い。 ・音楽室で音出しをしてすぐに中アリーナに行って演奏できるなど 中アリーナと音楽室が隣接しているのは良い。 ・入学式などはどこでやるのか。 →中アリーナで行うことで想定している。350人という収容人数を考慮すると小学校、 中学校の式典は別で実施することになると考えている。 ・中学校と小学校の式典は同時にできる想定で考えた方が良いのでは。 ・ステージと客席がフラットの場合、うしろの席から見えないという意見が出ていた。 ・吹奏楽を演奏する際、ステージ上とステージ下に分かれて演奏することもある。
プロムナード	・給食はどこで食べるか。 →光のプロムナードで給食を食べることが出来るように考えている。
特別教室	・地域開放で教室を使う際、団体ごとに分けて使えるのか。 →分けて使えるように考えている。
教室	・教室を広くしてもらいたい。現在物を持って移動するとぶつかったり、 机同士の間隔がちいさく椅子を引くとぶつかったりする。
図書	・図書室を広くしてほしい。 →様々な居場所を想定して作っていく。また、図書は光のプロムナードにも展開していく。 ・ハンモックで横になりながら本を読むと気持ちが良い。 ・図書室が丸い学校で勤務経験があるが、デッドスペースが出来て使いづらかった。 ・図書の本は紙でなくIPADなど電子書籍化されるか。生徒から重くて疲れるという意見も聞く。 →ICTを駆使して解決していきたいと考えている。また、本自体の手触りも大事だと思っており、 本もあり電子化も行う両方が共存するように模索していきたい。 ・インターネットで図書検索を出来るようにした方が良い。 スマホなどで家にいてもどんな図書があるかをわかると良い。
その他	・部室はないのか →部活動での荷物を置いておける場所は用意する必要があると考えている。 ・カフェスペースはないか。 →現段階では地域開放のラウンジがカフェ的なスペースとなっている。 ・薪ストーブが欲しい ・教科書の電子化はあるか →教科書の発行費用などの削減にらることも考えると、可能性はあるのではないか。。 ・親への連絡も紙でなく電子化してもらえると良い。 ・玄関を広くしてほしい。一斉に使った際に混雑する。 ・玄関の靴箱を低く作ってほしい。上段に手が届かない子もいる。

※青文字→その場での回答

| 基本設計時 第3回「新しい学校を考える会」ワークショップ |

1. 日時 2020年 1月 17日
2. 場所 安平町総合庁舎 2階 大会議室
3. 説明内容

1.開会のあいさつ

2.プレゼンテーション

【アトリエブंकより】

1.現段階のプランの説明※1/300模型を提示
 - ・配置について
 - ・1階平面について
 - ・2階平面について

2.現状案に対しての質疑・要望



| ワークショップの様子 |

| ワークショップの記録 |

■ 質疑・要望	
プロムナード	・廊下が曲がっているが防犯上避難上まっすぐの方が良いと思う。 ・校舎がカーブしていて見通しが悪く避難もしづらいのでは。
外構	・丘の管理は誰が行っていくのか。 ・外構は手間が無いように、後で管理しやすいように配慮してもらいたい。
図書館	・ホワイエ等「余白」（山の方も）の部分があるのが良いと思います。子どもが自分で作れるクリエイティブなところがあると○ ・一般開放する部分の管理人を別にするのであればその人用の部屋も必要？ ・以前カフェをつくらと言っていたがそれはどうなったか。→図書室に簡単なキッチンスペースを用意した。 ・一般の人たちがふらっと訪れた際、ホワイエが狭いと思う。
駐車場	・駐車場少ない？ ・地域開放して一般の方たちも止めるには駐車場が少ない ・駐車場が狭い。 ・体育館を利用する想定なら駐車場が少ない。
グラウンド	・ピッチングマシン用の電源（コンセント）をバックネット近くに設けて欲しい。 ・少年野球側のバックネット裏にも倉庫が欲しい。 ・走り幅跳びのレーンが遠い。 ・野球用のベンチを設置してほしい。（一塁側と三塁側） ・グラウンドの脇に手形などを残した思い出のコンクリートの壁がある。移設しても構わないので残してもらいたい。
教室まわり	・教室のサイズについて将来どういう教育が行われるかを見据えて検討してもらいたい。 ・教室が狭いと子どもたちの逃げ場がない。広いと自らで居場所を選べる。 ・HBの入口が一カ所だと入りづらいこともある。複数あったり、壁がなかったりするとよいのでは。 ・子どもたちが自分でつくる場所があるとよいのでは。例えばHB。子どもたちがデザインできる場所があれば面白い。 ・小さい教室がたくさんあると良いのでは。 ・ホームベースの大きさや壁や入口のあり方が気になりました。
その他	・学校内に壁が少ないことで防犯上問題ないか。 ・体育館に鉄棒があった方が良い。 ・中学校 保健の授業をやる場所が気になりました。 ・みんなが使いやすく居心地良いものにしたいなど。 ・もしスペースを減らすのであれば大人のための場を減らすべき。（校長室など）子どもの場はしっかり確保。 ・模型が非常にわかりやすかった ・子どもの居場所を確保してほしい。 ・地域開放のエントランスも狭い。 ・実際のサイズ感が想像できない。 ・冷暖房がどうなるのか気になっている。 ・薪ストーブが学校建物内にあっても良いのでは。 ・生徒玄関が狭いのでは。 ・実際のサイズ感がわからないので、現小学校の同スケールの模型もあるとわかりやすい。

| 基本設計時 第4回「新しい学校を考える会」ワークショップ |

- 1. 日時 2020年 2月 12日
- 2. 場所 安平町総合庁舎 2階 大会議室
- 3. 説明内容

- 1.開会のあいさつ
- 2.ディスカッション※1/100、1/300模型を提示
 - 図書館についてアイデアをお聞かせください。

- 1.休館日
- 2.開館時間
- 3.返却方法や返却時間
- 4.そのほか図書館に対するリクエストがあれば

- 開放施設(キッチンスタジオ、アトリエ、中アリーナ、大アリーナなど)についてアイデアをお聞かせください。
 - 1.施設の運営・管理に関してアイデアはありますか？
 - 2.みなさんが楽しめるようにミニキッチンを入れる予定です。どんな運営がいいと思いますか？誰がやるといいですか？
 - 3.そのほかなんでも

- 新しい学校ができた後、どのように関りを持っていきたいですか？



| ワークショップの様子 |

| ワークショップの記録 |

■図書館について アイデアをお聞かせください	
休館日	・ふと行きたい時に行くので原則ない方がよい ・月曜日：基本月曜休館が多い為慣れている 若しくは月曜日以外：反対に他の図書館が閉まっているから開けるという手。（だが、間違っ て行ってしまうこともある？） ・月曜日 ・年末年始を除いて開館 ・平日の1日、若しくは2日（学校に含まれると土日ゆっくり使いたい人が増えそう？） ・今まで通りで良いと思います（週1月曜日）希望を言えば無休だと嬉しいです。（理想） ・水曜or月曜 ・月曜日 ・平日 ・月曜がいいのかと。土日にも利用したい人がいるだろうから休みの日は開けた方がいい。としたら月曜休みが良いと思う。
開館時間	・9:00-20:00(or18:00まで) 曜日によって変えるのもあり。近隣自治体はこの時間内です。 ・8:00くらいから ・近隣市町村と同じくらい ・8:30-21:00 ・9:00-17:00 ・9:00-19:00 ・9:00-21:00 ・9:00-21:00 ・9:00-18:00(若しくは-20:00くらいでしょうか) ・9:00-17:00 ・仕事をしている人でも借りやすい時間帯もやってほしい ・9:00-20:00(最大)(19時でもよいと思うが)
返却時間 返却方法	・ブックポストあればOK ・そなえつけの入れ物 24時間返せる（ブックポスト） ・風除室があるならそこから中に入れられるポストがあればいいと思います。 ・24時間、夜間は無人ポスト（又は各公民館の無人ポスト） ・分館、安平町まると図書館構想（島根海士町で行っていました） ※海士町島まると図書館とは“図書館のない島”というハンディキャップを逆に活かし、島の学校（保育園～高校）を中心に 地区公民館や港など人が集まる既存の公共施設を図書分館と位置づけ整備し、それらをネットワーク化することで、 島全体を一つの「図書館」とする構想。 ・ネットで検索して貸出口ロッカーに入れてもらえれば実質24時間OPEN ・BOX ・ポスト ・ポスト、24H ・ポストありで少なくとも21:00までは対応 ・カウンター返却 ・ポスト等で24H返却 ・基本的には窓口で返却できるが、ポストを設置しても良いのでは（受付で端末でピッとすれば返却完了…みたいな）

｜ワークショップの記録｜

■図書館について アイデアをお聞かせください

その他 リエクト	・安平町の図書館は閉鎖的で子どもたちが行きたがらないのでオープンの方が良い ・追分の人も借りやすければいい(ネットから移動予約など) ・Felica対応(北広島図書館がそうです。スマートロックと連携していると尚ラク?) ・バーコード貸出(カウンター行かずにセルフで借りたい) ・髙屋書店等の置き方を参考にしてほしい。 ・PCコンセントエリア ・Wi-fi ・キャップのついた飲み物はOK(水筒、ペットボトルなど) ・靴を脱げるスペースが欲しい ・本棚が少し高ければ、奥や途中に椅子・テーブルを置くスペースを作れば1人になりたい人も来れるのでは。 ・個別スペース ・図書館BAR ・分類システム(カメレオンコードの使用) ・カウンセラー ・町民選書スペース ・仮眠室 ・カフェ
	・学校図書館と公民館図書館のダブリを整理する ・電子書籍化を進める ・自習スペースを設ける ・学校エリアとの棲み分けはパーテーションで分けるしかないのでは ・学校の先生は図書館の有効な利用する方法がわからず、実際は授業で使用しない人が多い。なので司書さん、BNKさん、先生方で良い図書館のあり方を考えた方が良いかもしれません。(もちろん学校図書という観点で) - ちなみに中学校の元教諭としては一般的な学校における図書室の利用はそこまで多くありません。 - もっと手軽にクラス前の廊下に本棚がある学校はそこから子どもたちが本を探して休み時間に読んでいました。 - なのでプロムナードを上手に活用してその本棚の本を入れ替えながら本の世界に親しんでもらうのが良いなど。 - 読む本(読みたい本)はないけど新しい本に出会いたいコーナー=いろんなコーナー - キーワードでしかありませんが、本を読みたくなる雰囲気(思わず長居したくなるような)、レイアウト、いい景色 - 図書に関するイベントができる。スペース(配置)を作るとどうでしょう。 - 落ち着ける空間、環境を目指す子どもたちに図書館のある意味をきちんと伝えられる人、環境を作ってほしい。 - 今できる大きさをどう活用するかは別の議論で。

■新しい学校ができた後、どのように関わりを持っていきたいですか？

こんなことが やりたい	・学年が違う子どもたちで遊べるようなイベントをしたい ・カフェはダメだと思います。維持費がかからないようなシステムを希望(自販機を置く等) ・コワーキングスペース、謎解きイベント、本を絡めたイベント ・これから子どもたちが入学するので自然と関わっていくのではないかと。 ・授業と一緒に作りたい!!(総合、道徳など) ・子どもがのびのび成長できる学校をバックアップできることをできたらよいと思います。 ・卒業生(ではないけど)として活動する

■開放施設(キッチンスタジオ/アトリエ/中アリーナ/大アリーナ)について アイデアをお聞かせください

施設の運営・管理について	※課題：清掃/備品や消耗品の管理・共有/イベント企画の相談窓口 ・清掃を町内の会社に委託しても良いと思う ・清掃(一般開放エリア)はアルバイト→地域の雇用創出、全部こどもはかわいそう ・大アリーナランニングデッキの横に休憩スペースがあると良いと思いました。 ・コーディネーターの人、担当を作る(例えば教育委員会) - 今体育館等で使う時間グループが固定しているので調整するような人、システム ・企業との連携 島根ではコーディネーターの活用が進んでいるので検討してみては ・業務用のルンバを配置。できないところは外注。公民館の統合を考えればミニキッチンの運営など解決するのでは。 ・話にも出ていましたが、管理棟みたいなスペースに常時人を置き(数人)基本その方々が運営に携わっていけるのではないでしょう ・学校の方で雇うのは不可能に近い→地域の人や事務・公務補を管理人として入れる。(二人ずつ入れる) ・常駐スタッフさんがいるといいですね。 ・町民スペースには管理人を常駐させて頂きたい。 ・町民が使うスペースは専門の人(委託)がやる方が良い。 ・管理人的な人がいた方が良い。 ・学校スペースと町民も使えるスペースは分けた方が良くと思います。 ・キッチンスタジオ/キッチンを活用して各こども園やキッチンのある施設をオンラインでつないだイベント。キッチンを使ったカフェ的な取り組み ・中アリーナ、大アリーナ/アビースポーツクラブに管理してもらう。ICTをかうようにして予約管理、清掃は使った団体が責任を持つ
	※どんな運営がいいとおもいますか？誰がやると良いと思いますか？ ・図書館、若しくはアリーナを使ったときにカフェ的に使いたい ・現在施設で考えると(施設が新しいこともあると思うが)ラビアのキッチンはきれいに維持しており不快感なく使用できた。また、きれいに維持されていると自分もきれいに使わなきゃという気持ちになる。 →理由(なぜきれいか)はわからないが、施設がコンパクトかつ管理人さんが几帳面であることは要因のひとつかもしれない。 ・予約制のキッチン 共同 みんながよく使える 早来こども園の学童みたいな ・料理教室や町内会、スポーツクラブ等で借りられれば運営は教育委員会又は管理を委託運営する会社をお願いします。 ・町民食堂、こども食堂、世界の料理ごはん会 ・ICTを利用すれば早朝からの利用可能 ・保護者の主婦層を中心として料理のベテランである地域の高齢者の方と積極的に交流できる場になると良いと思います。 ・主婦の方中心に。 ・誰かを決めるのではなく、予約をすればいつでもだれでも使えるような運営の仕方がいいと思う。誰かを決めてしまうとその人のものという認識が出てくるので基本的に自由という位置づけ

その他 なんでも	・震災ボランティアセンターとの連携ができればよいのでは

こんなことが やりたい	・校歌については？ ・あえて言うなら草刈おじさんでしょうか。何年後かな。。 ・二ーズがあれば少年団指導なども。 ・誰でも居心地よく使える図書室でありたい ・リラックスして本の読めるスペース ・図書スペースを活用して仕事がしたい(私的な) ・キッチンスペースを活用し子どもたちの食育の機会を増やす

2020/07中 基本設計案報告

(仮称) 安平町立早来小学校・中学校基本設計報告 自分が”世界と 出会う 場所”

安平町の
「自然」「地域」「文化」「人」に触れ、
支え、支えられる中で、
学校を通して「スポーツ」「テクノロジー」など
「異年齢、多世代」の人達、たくさんの「本物」と出会い、
さらに
「色々な考え」「多様な価値観」「多くの学び」「夢」
と出会い、
“世界”に生き、“世界”へと羽ばたいていく
みんなの学校

コンセプトにある
「自分」とは子どもたちのみを指すものではない。
「世界」とは国外を指しているわけではない。
地域とのつながりが深い安平町の良さを大切に捉え、
子どもたちだけではなく、地域の人々も
多様な考え方や価値を学び、あらな世界（世界観）と
出会うことができる学校という想いが込められている。
人は一生学び、生涯学習。
子供たちも保護者も地域住民も、
みんなにとっても出会いが広がります。
出会いによって人々がつながる学校を創りたい。
「自分が“世界”と出会う場所」というコンセプトは、
子どもたちを中心として、高齢者を含む人々までもが
豊かに学び育つ場所を創ることを目指すものである。

観察の庭

新しい学校は開放・共用・専用の
3つのエリアから成り立っています。

- 開放エリアは
地域の人でも使うことができます。
- 共用エリアは学校が使っていないとき、
地域の人でも使うことができます。
- 専用エリアは学校が主に使い、
利用者、場所、時間を限って
地域の人でも使うことができます。

セキュリティラインをはっきりさせ、
ICT技術を活用して学校・地域両方の
人々が安全に使える学校とします。

1. 学校の中心「みんなの図書室」

図書室が学校の中心になります。学校の専用エリア、
地域の人々とシェアする共用エリアどちらにも接し、
地域の人々も学校もいつでも使うことができるエリアです。
本を通じて人々の居場所と交流の核となります。

6. “世界”とつながる学校

どこでもいつでも誰とでも
つながることが可能なICT技術を用い、
多様な授業を展開できる
十分な情報通信環境を整えます。

社会科 教室

9年
(中3)
HB 8年
(中2)
HB

国語 教室

5. まなびの魅力を伝える教科教室

中学は各教科ごとの専用教室と生徒の居場所となる
HB（ホームベース）からなります。教科専用教室は
各教科の資料などが常時見て触ることができ、
まなぶことの魅力を生徒に伝える場になります。
HB（ホームベース）に隣接する教科教室は、
各クラスのCR（クラスルーム）にもなります。

4. なんでもできる大きな教室

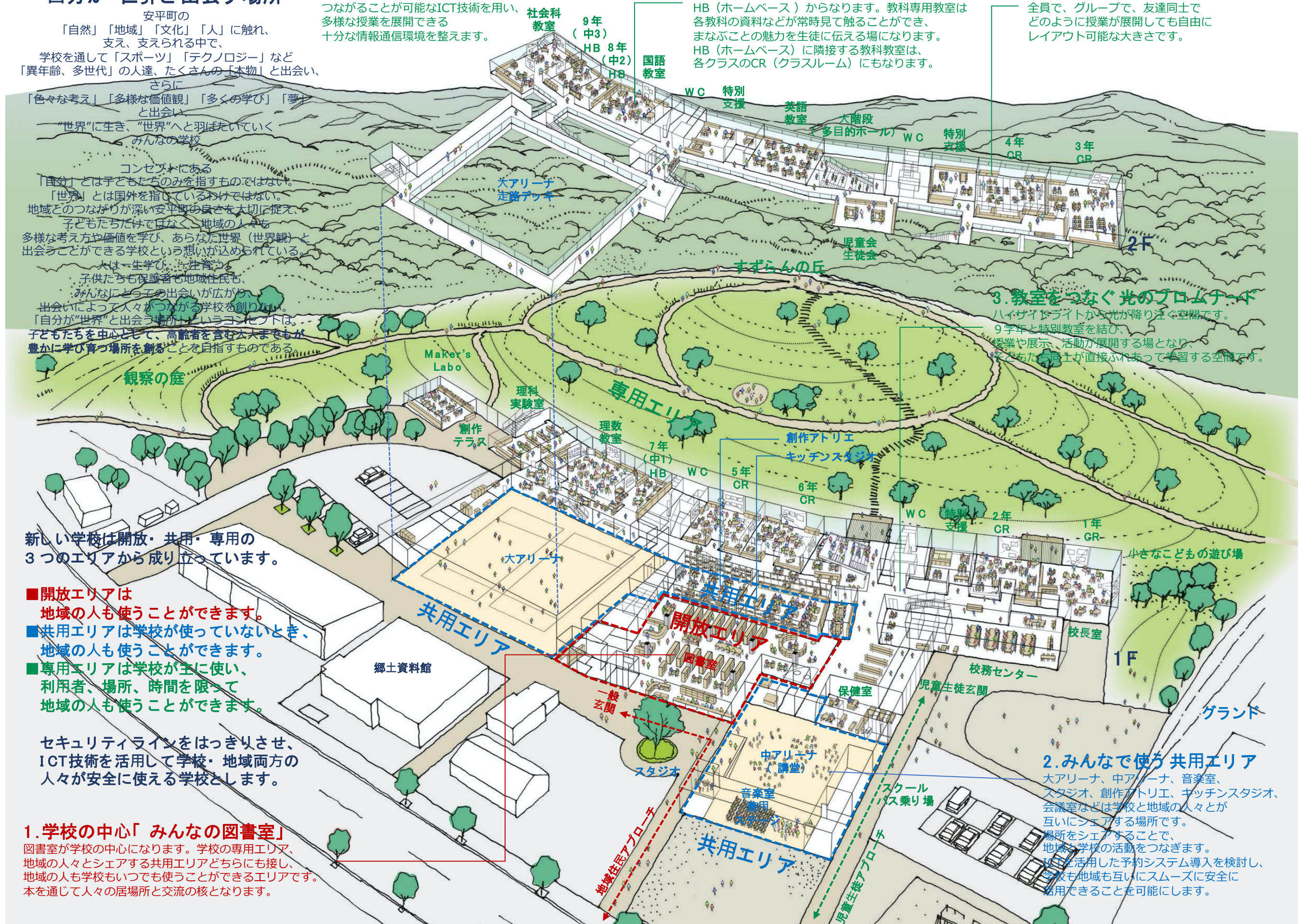
小学校の教室は通常の教室の2倍の大きさです。
全員で、グループで、友達同士で
どのように授業が展開しても自由に
レイアウト可能な大きさです。

3. 教室をつなぐ光のブロムナード

ハイサイドライトから光が降り注ぐ空間です。
9学年と特別教室を結び、
授業や展示、活動が展開する場となり、
子どもたち同士が直接ぶれあって学習する空間です。

2. みんなで使う 共用エリア

大アリーナ、中アリーナ、音楽室、
スタジオ、創作アトリエ、キッチンスタジオ、
会議室などは学校と地域の人々が
互いにシェアする場所です。
場所をシェアすることで、
地域と学校の活動をつなぎます。
ICTを活用した予約システム導入を検討し、
学校も地域も互いにスムーズに安全に
活用できることを可能にします。

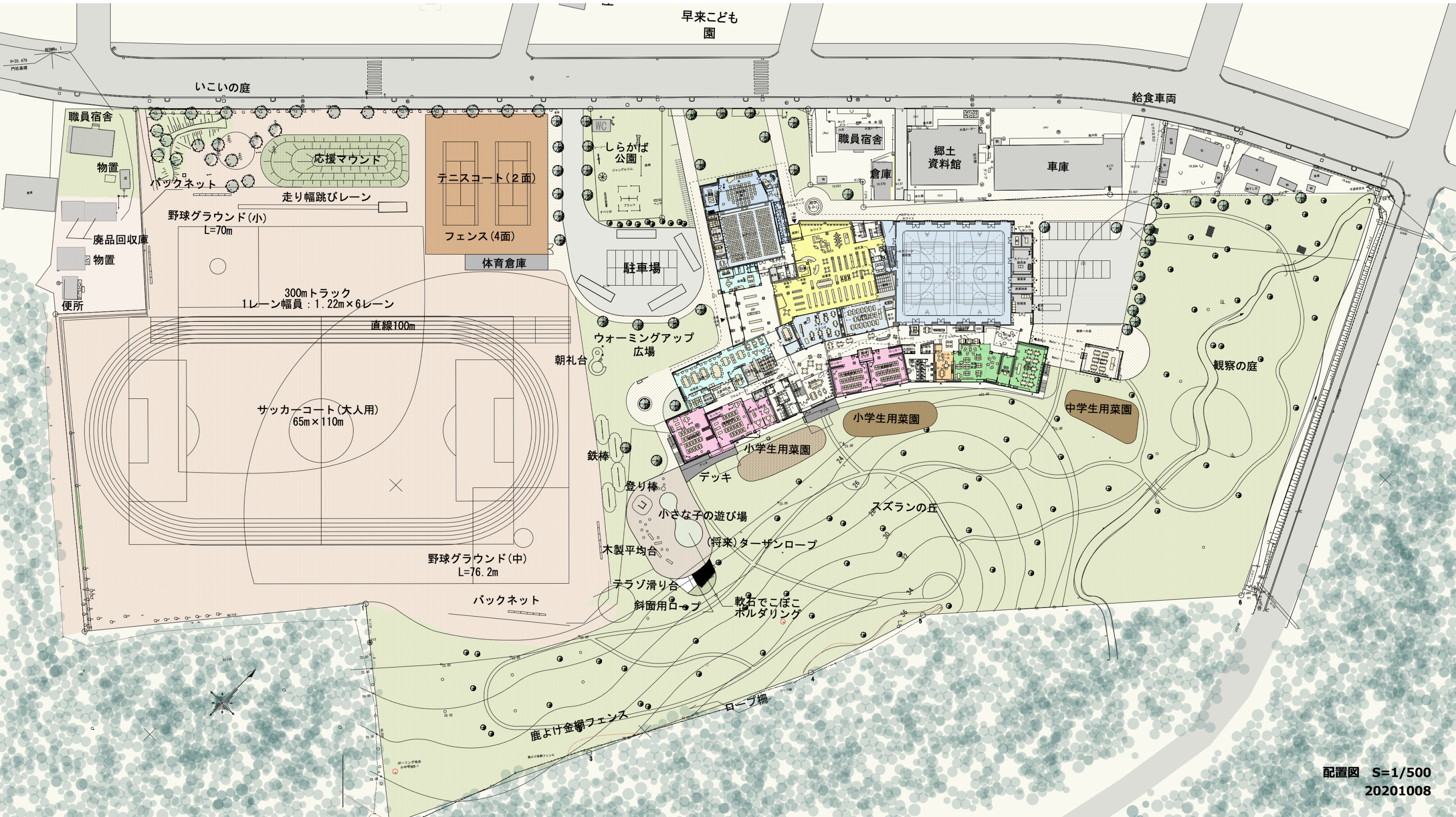


今

			課題の3本柱（スタート時「新しい学校を考える会」から）		
時期			ハード/器	ソフト/活動	
			建設/建物	学校運営	保護者・地域
実施設計時	事務局	4部会発足	設計部会/ICT部会	運営部会/広報部会	
	第1回	2020/10/14	実施設計中間報告（外構/平面）+自然観察会ご案内		
	自然観察会	2020/10/24	新しい学校の財産の発見（周辺、町、地域の資源の発掘）		
	第2回	2021/12月頃	進捗報告+デザインのアイデア/関わりたいところ/関われるところ		
	第3回	2021/3月頃	実施設計報告		
工事時	第1回	2022/春	カラスキーム/家具/サイン（校章・校歌/そのほか）/外構		
	第2回	2022/夏	上棟時見学会+内装/家具/サイン/外構		
	第3回	2022/秋	竣工見学会		
開校・運営時					

壁・柱位置がほぼ見えてきた

配置図



1F/2F平面図



地域利用とセキュリティ

・学校領域区分

・学校専用

・学校・地域共用

・地域利用

・フェンス等



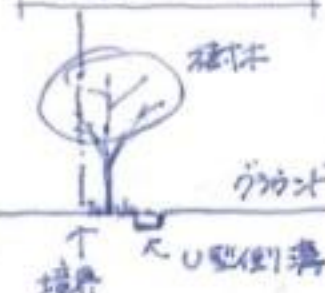
東中学校
図例
隣地

いこいの庭の敷地を
活用して、いこいの庭
の整備と植栽
を行い、見守りを行う。

草の山が死草を
つちかき、山の
高さも抑え、ゆるやかにする。

観望の庭への町民の出入口
に、金付扉と説明看板を
設置する。
柵は設けず、生垣で
植栽でガードする。

境界に柵は設けず、
植栽の雨水排水
施設で明示する。



丘を散策する人がグラウンドに
降りないように、園路はループ
系にする。

安全対策として低木植栽。
(現地に生えるコナギ・マミ・イバラ等)

境界に柵は設けず、
植栽で明示する。
危険箇所は低木を植栽する。

校舎に近づかないように、
中低木植栽でバックを
つくる。

道路沿いに柵と
水路があるため、
庭側には柵は
設けず。

◎ 校舎への通路には
金付扉と説明看板を
設置する。

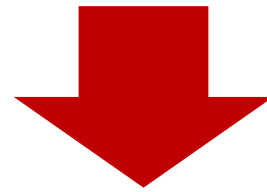
外構計画 / 全体計画

4=1:1200 200807

これから

			課題の3本柱（スタート時「新しい学校を考える会」から）		
時期			ハード/器	ソフト/活動	
			建設/建物	学校運営	保護者・地域
実施設計時	事務局	4部会発足	設計部会/ICT部会	運営部会/広報部会	
	第1回	2020/10/14	実施設計中間報告（外構/平面）+自然観察会ご案内		
	自然観察会	2020/10/24	新しい学校の財産の発見（周辺、町、地域の資源の発掘）		
	第2回	2021/12月頃	進捗報告+デザインのアイデア/関わりたいところ/関われるところ		
	第3回	2021/3月頃	実施設計報告		
工事時	第1回	2022/春	カラスキーム/家具/サイン（校章・校歌/そのほか）/外構		
	第2回	2022/夏	上棟時見学会+内装/家具/サイン/外構		
	第3回	2022/秋	竣工見学会		
開校・運営時					

みんなの学校



ダイレクトに反映可能な
「モノ・コト」は？

石蔵資産活用
軟石・小屋組

学校資産活用
憩いの庭
彫刻
ニオイヒバ

デザイン・制作
校章 サイン
家具 デン
遊具
ストリート
ファニチャ

ネーミング
学校名
教室名
場所名

カラスキーム等
床・壁・天井
家具・部品
植栽樹種

運用・運営
すずらんの丘
薪ストーブ+薪割り
デジタルサイネージ
イベントスペース

自然観察会のご案内

新しい学校の立つ場所には高さ12mの丘があり、
丘の上から早来のみち全体を眺めることができます。

昨年から3回の植生調査を通じて、

丘には様々な自然があることがわかっています。

現地には昔の建物の貴重な軟石や梁材、

伐採予定のニオイヒバなどもあります。

この場所の良さを植物や野鳥の専門家と 一緒に歩いて発見しませんか？

■開催日時 10/24（土）9：30～11：30（少雨決行）

※雨天の場合は10/31（土）に延期

■集合場所 早小現地（お車は向かい側の駐車場にお止めください）

■当日スケジュール

1.野鳥と植物の専門家と一緒に現地観察 9:30-10:30

※観察のポイントをまとめた資料を当日配布します

※建築・ランドスケープ設計者も同行します

2.ワークショップ 10:30-11:30

・みなさんからの感想・活用アイデア発表

・専門家からのお話し

※雨天の場合、総合庁舎大会議室で行います

※図面・筆記具を主催者側で用意します

■申込 役場まで